



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 227 号 2022/ 9

JR 路線、空想を超える現実 対処には具体的な政策を！

■昔読んだ漫画の一説に「人が空想できる全ての出来事は起こりうる現実である」という言葉がある。確かに新幹線やリニアも人類の夢が実現したものであろう。しかし、空想は楽しいものばかりではない。JR 西日本が今年 4 月にプレスリリースした「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」が波紋を呼んでいる。JR が単独で鉄道では維持が困難な路線の収支や利用状況を初めて開示したものだ。本かわら版でも 2020 年・2021 年と先立ってその規模について「予想」をしてきた。その当時の詳しい内容は 20 年 9 月号や 21 年 11 月号をご参照いただきたい。(ホームページに掲載)今回はその後追いとして JR 西日本が発表した資料から維持困難路線と示された区間が全て消えた路線図を作成してみた。

■以前のことを思い出すと 20 年 9 月号の時点では当時「さすがにこれはないか・・・」と思いながら作成したものである。そして、その後の 21 年 11 月版でも「予想より厳しい状況が続いているが、いくばくは持ちこたえるのでは？」と思ったのもよく覚えている。ところが今回、発表されたプレスリリースを見ながら驚愕した。残念ながら想像を遥かに超える規模であったからだ。この調子では特急が走っている区間や「本線」と名の付く路線も全く安泰ではない。

■それにしても、人は想像を超える「現実」を本当に目の当たりにすると不思議なもので「実は現実ではないのではないかと疑ってしまうようになる。これは危機感が麻痺することを意味するため、甘く見ると取り返しにつかないことになるので注意が必要だ。今後、自治体での協議が各地でさらに活発化していくことになるが、地域として生き残るために鉄道をどう位置付けるか？を真剣に考える必要がある。無論、結果として鉄道以外の選択肢を取るのであればそれは正しい戦略に沿ったものであれば前向きな議論として受け入れるのも 1 つであろう。ただし、鉄道の廃止と言うのは人口減少や中心市街地の衰退など地域の問題が総合的に重なって噴出する現象である。要望書を出して「やりました感」を出す活動に意味はない。本気でそこで生活する人々のことを考えた話し合いを求めたい。恐らく、それが出来ないところは鉄道どころか、街ごと消滅するのもそう遠くない話であろう。空想出来ることは全て起こり得る現実なのであるから。

■国鉄は分割民営化されたか、本州 3 社と九州を上場した時点で、潜在的には今回の事態は有りえたのだが、国も自治体も無視してきた。残念ながら自治体には鉄道のわかる職員はほぼいないから、JR の言い値を検証する能力は無い。そこで実質県営の三セク鉄道会社を持つ県は、その経験を生かす時だ。また国はコミバス並に、鉄道に交付税措置などを実施すべきだろう。

図 1:2020 年 9 月作成時の当瓦版による予測の「最悪の路線図」



図 2:2022 年 4 月プレスリリースを基に維持困難路線を削除した路線図。さらに深刻であることが分かる。(JR 西日本の「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」より作成)※JR 西の路線のみ表示とした。



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

